

2022.7.24

ご報告：7/23 第 35 回働学研（博論・本づくり）研究会

十名 直喜

コロナ禍が第 7 波に入り、心配が広がっています。そうしたなか、夏休みを迎え、子どもたちのはしゃぐ声が聞こえてきます。如何お過ごしでしょうか。

光陰矢の如し。働学研月例会も、6 月例会で 3 周年。小野さんの卒寿記念講演などで、お祝いしました。

7/23（土）第 35 回働学研は、3 時間余にわたり白熱した議論が交わされ、4 年目のスタートを飾るにふさわしい充実した月例会となりました。

ご参加いただきました下記 25 名には、心よりお礼申し上げます。

（敬称略：伊藤、岩田、太田、小野、片山、金井、聴涛、木林、熊坂、小林、佐藤、澤、杉山、高松、程、中谷、中野、野間口、濱、平松、古橋、堀、安林、横田、十名）

7/23（土）第 35 回働学研は、2 部編成で 6 本の発表がありました。

第 1 部 オープンイノベーション&市民主体のまちづくり

第 2 部 技術・経営・文化への歴史的・俯瞰的視座

なお、7 月働学研の直前には、社会人研究者 2 人の単著書（下記）が出版されました。

聴涛弘『<論争>地球限界時代とマルクスの「生産力」概念』かもがわ出版

横田幸子著『人類進化の傷跡とジェンダーバイアス 一 家族の歴史的変容と未来への視座』社会評論社

月例会の始める前に、横田さんから出版&献本のご挨拶をしていただきました。感銘深い語りで、後に続く私たちに出版など知的挑戦への勇気を与えるものでした。

聴涛さんは、奥様の急きょ入院で早々に退席されました。ご挨拶は次回以降となります。

7/23 第 35 回働学研プログラム

（司会：太田・濱・十名、画面：澤 & 発表・議論各 15 分：計 30 分/本）

第 1 部 オープンイノベーション&市民主体のまちづくり（司会：太田）

澤 稜介：「オープンイノベーションを再定義する— 自然科学×IoT×AI×データが導く未来社会のあり方」

古橋敬一：「協働を通して育む公共性 一 なごやのみ（ん）なとまちをつくる」

高松平蔵：「ドイツのシビックプライド 一 市民社会の基礎概念として」

第 2 部 技術・経営・文化への歴史的・俯瞰的視座（司会：濱）

太田信義：「DX 時代の技術アウトソーシングの役割 一 過去・現在・未来の役割変化か

らの一考察」

中野健一：「日本経営学にみる伝統と近代の相克 ―断絶と継承、光と影の両側面をふまえて」

中谷武雄：「書評：十名著『サステナビリティの経営哲学』『季刊 経済理論』」

各位の発表と議論については、<付記1 発表&議論のポイント>をご覧ください。

なお、次回の8/20第36回働学研などについては、<付記2 8、9月働学研のお知らせとお願い>をご覧ください、

どうかよろしく申し上げます。くれぐれもお大事に。

<付記1 発表&議論のポイント>

澤 稜介さんの発表は、オープンイノベーションを日本でどう起こしていくかを、ICT企業の視点から、提示されたもの。オープンイノベーションの再定義を行い、科学、IoT、AI、データを組み合わせて活用していく方策も検討されています。理論と政策が乖離しているのでは、情報の非開示や本音で議論できない社会風土の構造分析を入れては、との指摘も。

古橋敬一さんの発表は、10年近くに及ぶ名古屋港界隈の「み(ん)なとまちづくり」を題材に、協働と公共性の視点からまちづくり考を提示されたものです。「みんな」とは何か、「個」とどう関わるのか。参加と連帯、個の物語性。地域の高齢層と仕事で来る青壮年層をどうつなげるか。多様かつ錯綜した構造への図式活用、日独比較視点を参照すべし、等。

高松平蔵さんの発表は、都市の質を支える循環系の基礎概念として、「ハイマート」に着目、ドイツ版ふるさとづくりを提示。ハイマートは、感情を軸に文芸、政治、社会、言説にまたがる。ふるさとは、自己選択と連帯に基づく。循環の要をなすのが、鳥瞰、軸、革新。まちづくり語は、ドイツにない。地域の「誇り」は日本とも共通。斬新な指摘に刮目！

太田信義さんの発表は、空間軸、時間軸の広い視点から、技術アウトソーシングの役割と変化を深く分析。トヨタ系から自動車産業さらに他産業にまたがる空間軸、過去から未来にまたがる歴史軸。個人技術力と組織技術力の違い、情報分析力、技術者に求められる多面的システム能力、とは何か。技術の請負と自立の関係、俯瞰力と論理力の日本的弱さ等。

中野健一さんの発表は、日本経営学の成立と展開を、伝統と近代、断絶と継承、光と影の多面的視点から考察。日本人に合った経営思想、現場で使える経営学とは何か。なぜ近代経営学は使いにくいのか。到達点とみられる野中経営学は、失敗にどう学んだか。伝統的な商人道は失敗にどう取り組んだのか。失敗の科学的分析の弱さが日本の課題、など議論。

中谷武雄さんの発表は、『サステナビリティの経営哲学』を俯瞰し文化コモンズ論の視点から、書評として深められたもの。私富と公富をめぐるローザデール&A.スミス論争。経済学のキーワードをめぐる、希少性から多様性・個性へのシフト論の是非。部分最適&全体最適論、ラスキンのコモンズ復活論と人づくり、IT巨大資本による文化コモンズ支配、等。

<付記2 8、9月働学研のお知らせとお願い>

濱真理著の出版も近づいています。それに続き、熊坂敏彦著の出版も今夏に予定されています。社会人研究者による初の単著書出版が、相次いで予定されています。

不思議なご縁の力が働いている！と感じる次第です。

8/20 第36回働学研では、下記の5本が予定されています。テーマなど仮の段階です。皆様のご応募、ご参加、お待ちしております。

ご応募、参加の方は、十名 (tona@iris.eonet.ne.jp) までお知らせください。

富澤公子：「高齢者におけるプログラミング教育の現状と展望」

平松民平：「書評 聴涛弘[2022]『(論争)地球限界時代とマルクス「生産力」概念』」

片山勝己：「欧米における技能教育の特徴と歴史の変遷 ―日本との比較視点」

程 遠紅：博論の全体像(目次・要旨)「中国における都市生活ごみの現況と課題―法治・管理・教育の三位一体による持続可能な循環地域づくり」

伊藤泰子：「「聞こえない人」から「手話者」への発達と社会的支援課題―社会的偏見と差別を超えて」

なお、9月の第37回働学研は、文化政策セミナー(9/10-11)の一環として、9/10に開催されます。

8/20 働学研から3週間、そして当日の都合もあり、出版記念シンポジウムに絞りたく思います。各位の研究発表は、その前後(8/20、10/22)月例会でお願いします。

**14:30~17:00 働学研(博論・本づくり)研究会 司会：太田、濱、十名 画面：澤
(社会人研究者3人の単著書) 出版記念シンポジウム 総合司会：十名**

14:30~14:45 前座(近況紹介、抱負など自由交流)

横田幸子[2022]『人類進化の傷跡とジェンダーバイアス ―家族の歴史の変容と未来への視座』

濱 真理[2022]『市民と行政の協働 ―ごみ紛争から考える地域創造への視座』

熊坂敏彦[2022]『循環型地場産業の創造 ―持続可能な地域・産業づくりに向けて』

書評者：藤岡惇、藤井敏夫、富澤公子、渡部いづみ、**書評者募集中**

「社会人の単著書出版同期化の歴史的意義と協働の未来に向けて」(十名直喜)

なお、3冊の書評、感想、コメントを募集します。いずれの本でも構いませんので、どうかよろしくをお願いします。